

喘息発作と顔面・上半身の浸出症状を経て仕事へ復帰した成人アトピーの経過 (41 歳 成人)

症例 ID：001-40-TT | 記録日：2014 年 11 月 21 日

1. 診断・治療前経過

高校期に眼周囲の皮膚症状が出た後、通年性鼻炎、結膜炎、肘の湿疹がみられました。29 歳頃から咳が続き、気管支喘息と診断されました。34 歳時には旅行中の重い発作で救急搬送され、帰宅後に約 2 週間入院しました。

36 歳頃から腕の湿疹が出て、複数のステロイド外用薬を使用しましたが、顔面を含め症状が徐々に悪化しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	喘息に対する吸入ステロイド、皮膚症状に対する複数のステロイド外用薬を使用しました。
製品名	フルタイド、その他の外用薬 5 種類（製品名不明）です。
強度	不明です。
使用期間	喘息発症後から受診前まで継続し、皮膚外用は少なくとも受診前の期間に使用しました。
中止時期	松本医院受診時に中止しました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
高校期～20 代	アレルギー症状	眼周囲症状、鼻炎、結膜炎、肘の湿疹がみられました。
29～34 歳	喘息悪化	咳と喘息発作を繰り返し、34 歳時には救急搬送後に入院しました。
36 歳頃	皮膚症状悪化	腕から顔面へ湿疹が広がり、複数の外用薬を使用しました。
治療開始直後	喘息発作	強い喘息発作が約 6 日続きました。
その後約 3 か月	全身症状	顔面・耳・首・胸・腕へ腫れと浸出液が広がり、夜間不眠が続きました。
治療約 3 か月	改善期	炎症範囲が少しずつ減り、仕事復帰を考えられる状態になりました。
2 月 27 日	生活変化	仕事へ復帰しました。
同年末～翌年 6 月	再燃と再復帰	眼周囲から顔面へ再燃し休職しましたが、翌年 6 月に再び仕事へ復帰しました。
2014 年 11 月	経過中	眼周囲に症状は残りましたが、喘息発作はみられていませんでした。

4. ピーク時期

ピークは、顔面の凹凸がなくなるほど腫れ、血液と浸出液が出て、耳・首・胸・腕まで症状が広がり、肘を伸ばせず夜間もほとんど眠れなかった時期です。

5. 困りごと

- 顔面と上半身の浸出液で衣類が短時間で湿りました。
- 肘の亀裂により可動域が狭まり、日常動作が困難となりました。

- ・喘息発作と皮膚症状のため、複数回の休職が必要となりました。

6. 経過のまとめ

喘息発作と顔面・上半身の強い浸出症状を経験しましたが、約3か月後から皮膚状態が整い始め、仕事へ復帰しました。その後も再燃はありましたが再度就労でき、記録時点では喘息発作はみられていませんでした。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。